

# キャリア教育を推進するためのカリキュラム開発のステップ

平成21年3月

茨城県教育研修センター

## 「キャリア教育を推進するためのカリキュラム開発のステップ」について

今日、産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等が進む中、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化してきています。また、若者の勤労観、職業観の未熟さや、社会人・職業人としての基礎的な資質・能力の不十分さなどについても、各方面から指摘されています。そこで、子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるよう、キャリア教育の推進が強く求められているところです。

このような声に応えるべく、文部科学省は平成16年1月に「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議（報告書）」を、平成18年11月には「キャリア教育推進の手引」を示し、茨城県教育委員会も平成17年度より「キャリア教育研修会」を実施するなどして、学校におけるキャリア教育の推進を支援してきました。

そこで、本教育研修センターでは、キャリア教育推進の一層の具現化を図るため、「キャリア教育を推進するためのカリキュラムの開発」の研究主題のもと、平成19・20年度の2か年にわたる研究を進めてまいりました。

この研究において、現在県内の各学校においては、キャリア教育に関する教職員の共通理解や育成する能力・態度の明確化、指導計画の作成及び校内研修の進め方等に課題があることが明らかになりました。そして、これらの課題解決の方策を見いだすために、小・中・高等学校計7校の協力を得て、実践研究を進めてまいりました（詳しくは茨城県教育研修センター研究報告書第65号「キャリア教育を推進するためのカリキュラムの開発」参照）。

本冊子「キャリア教育を推進するためのカリキュラム開発のステップ」は、上記研究報告書の第Ⅲ章を取り出し別冊とすることで、各学校で使いやすい形としたものです。キャリア教育を立ち上げる段階におけるカリキュラム開発の手順（ステップ）を、組織マネジメントの視点も取り入れながら六つの段階に分けて示しました。

各学校におきましては、本資料を活用することにより、これからの時代を生きる子どもたちの夢の実現に向けて、キャリア教育を積極的に推進されますことをご期待いたします。

平成21年3月

茨城県教育研修センター次長兼教職教育課長 和泉田 寛

## 目次

ステップ1	キャリア教育を推進するための組織をつくりましょう	1
ステップ2	校内研修でキャリア教育についての共通理解を図りましょう	2
ポイント1	「キャリア」, 「キャリア発達」とは?	2
ポイント2	キャリア教育とは?	3
ポイント3	なぜキャリア教育が必要なの?	4
ポイント4	キャリア教育が「新しい教育内容の導入ではない」とはどういうこと?	4
ポイント5	キャリア発達にかかわる諸能力とは?	5
ポイント6	キャリア教育と進路指導の違いは?	5
ステップ3	「学習プログラムの枠組み(例)」を自校化しましょう	6
ステップ4	キャリア教育の全体計画を作成しましょう	8
ステップ5	キャリア教育の年間指導計画を作成しましょう	10
ステップ6	キャリア教育の視点を踏まえた学習指導案を作成しましょう	11

## ステップ1 キャリア教育を推進するための組織をつくりましょう

キャリア教育は、学校の全教育活動を通して推進されます。そこで、キャリア教育の意義を正しく理解し、系統的・横断的な実践を組織的に展開するために、キャリア教育を推進する組織を、すべての教職員がかかわり協働性を発揮できるものにするのが大切です。

具体的には、既存の校務分掌を有機的に結び付けて、キャリア教育推進委員会等の委員会を組織してみましょ。キャリア教育推進委員会の役割として考えられることは、概ね以下のとおりです。ここで決定した内容を、職員会議等において提案します。

- ・ 自校のキャリア教育の目標の設定及び目指す児童生徒像の明確化
- ・ キャリア教育の全体計画、年間指導計画の検討
- ・ キャリア教育の評価及び次年度の計画の策定
- ・ 研修会（キャリア教育についての理解、授業研究等）の企画運営、情報収集・発信

下に示すのは、基本的な校内組織の例です。これを参考に、自校の実状に合った組織を工夫してみましょ。また、中学校、高等学校では、進路指導主事がキャリア教育主任となり、従来の進路指導部を生かした組織とすることが考えられます。その際は、従来の進路指導の域を出てキャリア教育を推進するという観点から（ステップ2 ポイント6 参照）、すべての教職員がかかわる全校的な組織に拡大するようにしましょ。

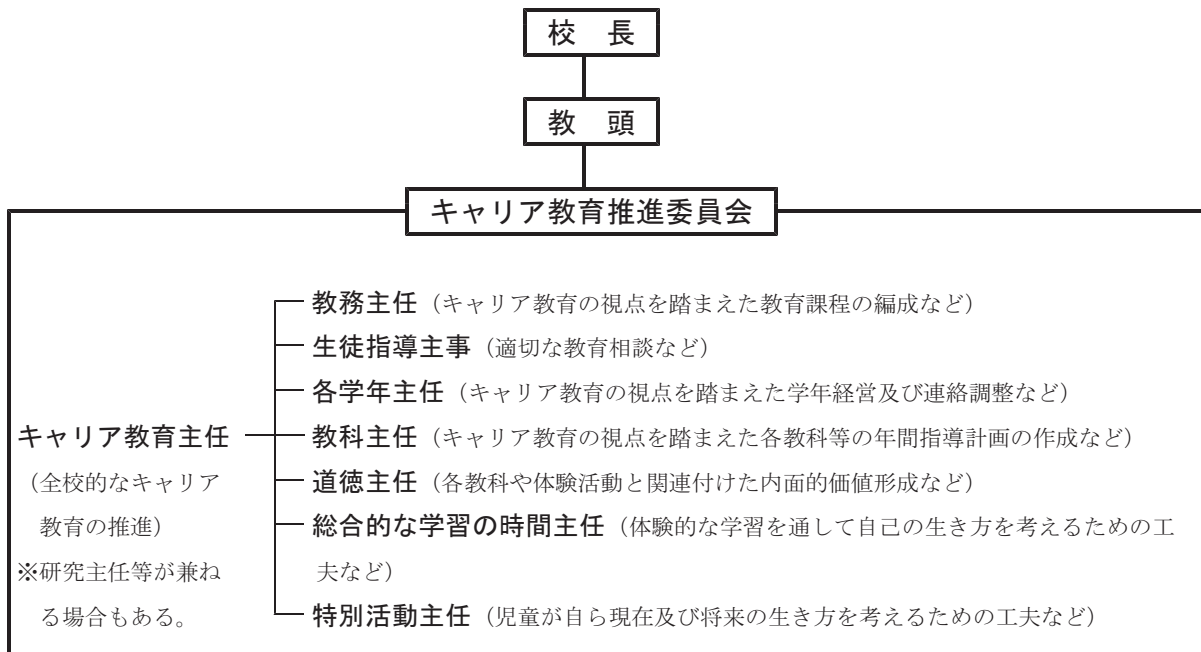


図1 キャリア教育を推進するための組織（小学校）の例

## ステップ2 校内研修でキャリア教育についての共通理解を図りましょう

キャリア教育を推進するための組織ができれば、次に、校内研修でキャリア教育についての共通理解を図りましょう。キャリア教育は、すべての教育活動を通して行うものなので、キャリア教育を進める上で基本となる内容について、全職員で共通理解を図ることが重要です。以下に、教職員がキャリア教育を理解するために押さえておきたい6つのポイントを挙げてみます。

### ポイント1 「キャリア」、「キャリア発達」とは？

これらについて、図2、3に示すKさん（小学校5年生）の具体的な発達の姿から考えてみましょう。

まず、「キャリア」の定義については、以下のように示されています。

#### 「キャリア」とは？

「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」

（「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議（報告書）」  
平成16年1月 文部科学省（以下「協力者会議報告書」と表記））



図2において、Kさんは「レク係」として活動し、「みんなの意見を聞いて楽しいレクを企画できた。みんながよろこんでくれてよかった。」と考えます。その体験から自信をもったKさんは、次に「運動会実行委員」として活動し、「他の委員や先生と話し合っ、新しい種目を考えることができた。みんなで協力して楽しい運動会ができた。」と考えます。この「レク係」から「運動会実行委員」へのつながりが「立場や役割の連鎖」であり、それらを通して得た思いや考えの重なりが、

図2 Kさんのキャリア

「自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」です。そして、これらを生涯にわたる視点からとらえたものが、Kさんのキャリアになります。

次に、「キャリア発達」の定義については、以下のように示されています。

#### 「キャリア発達」とは？

発達とは生涯にわたる変化の過程であり、人が環境に適応する能力を獲得していく過程である。その中で、キャリア発達とは、自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程である。具体的には過去・現在・将来の自分を考えて、社会の中で果たす役割や生き方を展望し、実現することがキャリア発達の過程である。

（「キャリア教育推進の手引」平成18年11月 文部科学省）

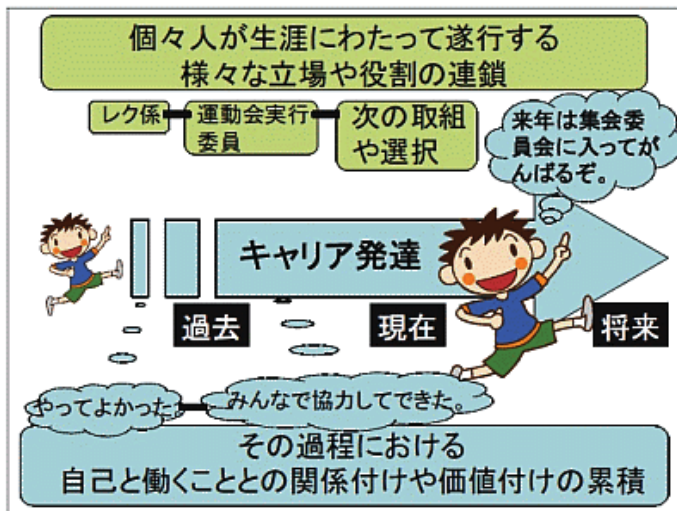


図3 Kさんのキャリア発達

レク係や運動会実行委員の経験が生かせるかもしれない」「今度は全校児童の前で司会をしてみたい」などの思いや考えに基づいています。このように、Kさんは、「レク係」や「運動会実行委員」の経験を基に、「自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴」に目を向けて、「生き方として統合」したわけです。このKさんの一連の変容が、「キャリア発達」です。そして、このような営みは、Kさんの人生を通じて繰り返し行われ、「過去・現在・将来の自分を考えて社会の中で果たす役割や生き方を展望し、実現すること」になります。

## ポイント2 キャリア教育とは？

「キャリア教育」の定義については、以下のように示されています。

### 「キャリア教育」とは？

「キャリア概念」に基づいて、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」。端的には、「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」（「協力者会議報告書」）

キャリア教育においては、勤労観、職業観を育てることを通して、児童生徒一人一人が生き方について自分で選択決定できる能力・態度を身に付けさせます。

「キャリア教育」について保護者等に伝える場合には、「一人一人が将来自分の人生を主体的に歩めるようにするための力を育む教育」のような分かりやすい表現を工夫するとよいでしょう。



### ポイント3 なぜキャリア教育が必要なの？

一般に言われているように、キャリア教育には、若年者雇用の悪化等を受けた緊急対策や、勤労観、職業観の未熟さなどの若者自身の資質等をめぐる課題への対応など、子どもたちの外部からのニーズがあります。

一方で、下の調査結果のように、学校で「自分の個性や適性を考える学習」や「働く意義や目的を考える学習」などについてもっと指導してほしいという、子どもたち自身からのニーズがあることにも注目しましょう。

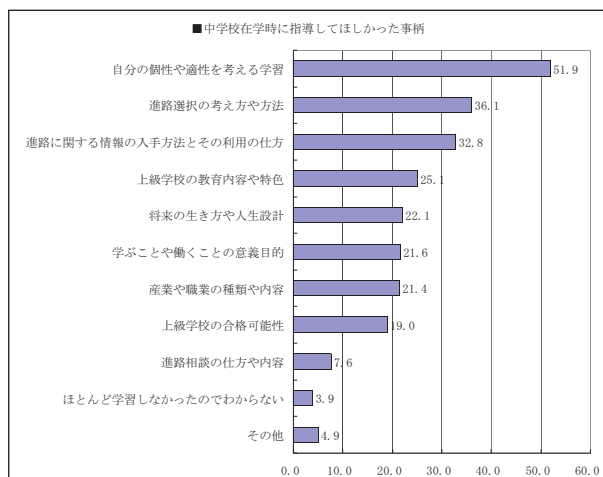


図4 文部省「中学校における進路指導に関する総合的実態調査報告書（平成11年3月）」より

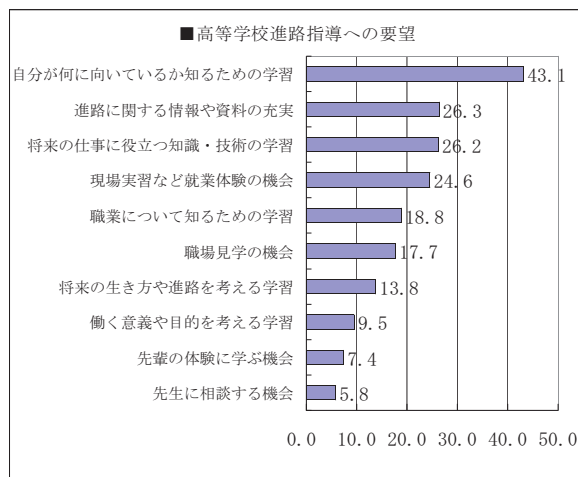


図5 文部科学省「高校生の就職問題検討会議報告の実態調査報告書（平成13年2月）」より

### ポイント4 キャリア教育が「新しい教育内容の導入ではない」とはどういうこと？

キャリア教育では、全く新しいことを始めるのではなく、キャリア教育の視点から、今までの教育活動を見直すこと、つまり、各教科等の中のキャリア教育と関連する活動・内容を明確にとらえるとともに、そこで育むことができるキャリア発達にかかわる諸能力を意識しながら、教育活動を行うことが求められています。この点から、必ずしも新しい教育内容を導入するものではないと言えます。

キャリア発達にかかわる諸能力は、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが開発した「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」(以下「学習プログラムの枠組み(例)」と表記)(P.72資料6参照)に示されています。これらの諸能力は、教育活動を見直す具体的な視点としても活用することができます。

**キャリア教育が「新しい教育内容の導入ではない」とはどういうこと？**

キャリア教育では、全く新しいことを始めるのではなく、キャリア教育の視点から、今までの教育活動を見直すことが求められています。ですから、必ずしも新しい教育内容を導入するものではありません。

## ポイント5 キャリア発達にかかわる諸能力とは？

キャリア発達にかかわる諸能力の代表的な例には、「人間関係形成能力」，「情報活用能力」，「将来設計能力」，「意思決定能力」があります。これらの四つの能力は，一般的に，社会的自立を図る上で必要な能力であると言われており，発達段階に沿って育成されるものです。「学習プログラムの枠組み（例）」には，小・中・高等学校の各時期に育成する能力が具体的に示されています。これらの四つの能力は，さらに，それぞれ二つの下位能力に分けられます。

これらの四つの能力の関係を，早稲田大学大学院教授の三村隆男氏は，図6のように，人間関係形成能力が他の能力の基盤となり，その上に情報活用能力と将来設計能力が位置し，意思決定能力を支える構造になっているととらえています。

ここに示された能力は，目標や評価の観点として用いることができます。各学校では，これらの四つの能力を参考にしながら，学校や地域の特性，児童生徒の実態に応じて，身に付けさせる能力を検討することが大切です。

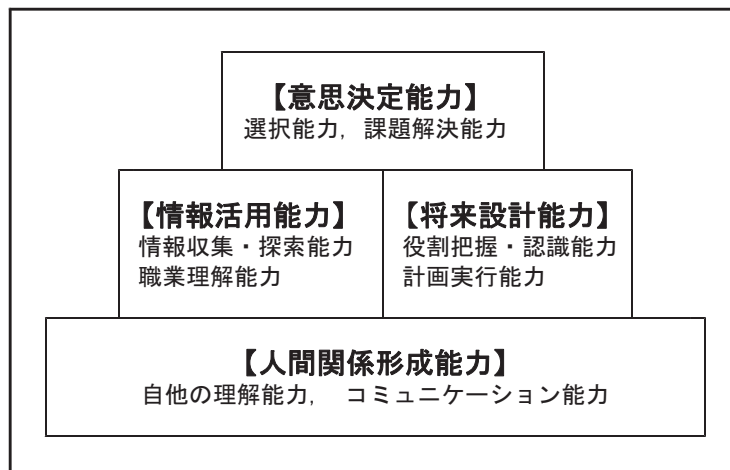


図6 キャリア発達にかかわる諸能力の構造図

## ポイント6 キャリア教育と進路指導の違いは？

キャリア教育は，主体的な生き方を選択する力を養う本来の進路指導とは同質であり，その理念は，児童生徒のキャリア発達を促すことによって主体的なキャリアの形成を支援していくことです。

本来の進路指導は，生徒が自らの生き方を考え，将来に対する目的意識をもち，自らの意思と責任で進路を選択決定する能力・態度を身に付けることができるよう指導・援助することです。しかし，従来の進路指導では，進路決定の指導や出口指導，生徒一人一人の適性と進路や職業・職種との適合（マッチング）を主眼とした指導が中心となりがちでした。

キャリア教育	従来の進路指導の傾向
<ul style="list-style-type: none"> <li>発達の観点に立ち，選択と適応の連鎖の中で，生涯にわたってのキャリア発達とキャリアの充実を目指す。</li> </ul> <p>キャリアの形成の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての教育活動を通して，意図的・継続的に推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の適性と進路や職業・職種との適合を主眼とした指導が中心となりがちである。</li> </ul> <p>進路決定の指導・出口指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級（ホームルーム）活動の進路指導が中心である。</li> </ul>

図7 キャリア教育と従来の進路指導の比較



### ステップ3 「学習プログラムの枠組み(例)」を自校化しましょう

キャリア教育に取り組むに当たっては、児童生徒の実態などから、児童生徒の何が課題か、どのような能力の育成に重点を置くべきかを検討し、児童生徒に育成すべき能力に焦点を絞った自校のキャリア教育の「学習プログラムの枠組み」を作成する必要があります。その際に、キャリア教育はすべての教育活動を通して行われるので、全教職員が「学習プログラムの枠組み」の作成にかかわっていくことが大切です。

そこで、校内研修を中心に、「学習プログラムの枠組み」の作成について以下のような手順を進めていくとよいでしょう。

#### 手順1 個人での検討

校内研修にのぞむに当たって、事前に自分の担当する学年の児童生徒の実態から、育みたい「能力・態度」を個人で検討するようにします。その際に、図8のようなワークシートを用意し、検討したことを付箋紙に記入し貼付して校内研修にのぞむようにします。

○「学習プログラムの枠組み」作成事前準備

職業的（進路）発達に関わる諸能力（4領域8能力）について、自分なりに「どんな能力」なのか、具体的にイメージしてください。できれば、何人かの先生方と話し合っておくとよいかもしれません。

次回の「校内研修」に向けて、大変でも次のことを準備しておいてください。  
 ①「学習プログラムの枠組み（例）」をみて、職業的（進路）発達にかかわる諸能力（4領域8能力）について、どんな能力なのか自分なりに考えておいてください。  
 ②付箋紙に「自分の担当学年の生徒に育みたい能力・態度」を具体的に書いて、シートにはっておいてください。

職業的（進路）発達にかかわる諸能力		職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度	
職業的（進路）発達にかかわる諸能力		職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度	
領域	領域説明	能力説明	2年生で育む具体的な能力・態度
人間関係形成能力	<p>他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。</p>	<p>【<b>自他の理解能力</b>】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力</p> <p>【<b>コミュニケーション能力</b>】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力</p>	<p>自分のよさを言える。</p> <p>友達のよさを理解しようとする。</p> <p>進んで友達とコミュニケーションがとれる。</p>
		<p>・自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。 ・自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 ・自分の悔みを話せる相手を持つ。</p> <p>・他者に配慮しながら積極的に人間関係を築こうとする。 ・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 ・リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。 ・新しい環境や人間関係に適應する。</p>	<p>生徒の実態調査などを基に、自分の担当する学年の生徒に身に付けさせたい能力や態度を付箋紙に具体的に書いてください。（1枚につき一つ）</p>

○「学習プログラムの枠組み」作成事前準備

職業的（進路）発達にかかわる諸能力（4領域8能力）について、自分なりに「どんな能力」なのか、具体的にイメージしてください。できれば、何人かの先生方と話し合っておくとよいかもしれません。

次回の「校内研修」に向けて、大変でも次のことを準備しておいてください。  
 ①「学習プログラムの枠組み（例）」をみて、職業的（進路）発達にかかわる諸能力（4領域8能力）について、どんな能力なのか自分なりに考えておいてください。  
 ②付箋紙に「自分の担当学年の生徒に育みたい能力・態度」を具体的に書いて、シートにはっておいてください。

職業的（進路）発達にかかわる諸能力

職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度

領域

領域説明

能力説明

2年生で育む具体的な能力・態度

人間関係形成能力

他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。

【**自他の理解能力**】  
自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力

【**コミュニケーション能力**】  
多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力

・自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。  
・自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。  
・自分の悔みを話せる相手を持つ。

・他者に配慮しながら積極的に人間関係を築こうとする。  
・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。  
・リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。  
・新しい環境や人間関係に適應する。

自分のよさを言える。

友達のよさを理解しようとする。

進んで友達とコミュニケーションがとれる。

生徒の実態調査などを基に、自分の担当する学年の生徒に身に付けさせたい能力や態度を付箋紙に具体的に書いてください。（1枚につき一つ）

図8 事前準備ワークシートの一部（中学校第2学年）

#### 手順2 低・中・高学年（中・高等学校は学年）に分かれての検討

個人で検討したワークシートを持ち寄って校内研修を行います。グループは小学校は低・中・高学年のブロックごとに、中・高等学校は学年で編成します。会場は、教職員が学校全体でキャリア教育に取り組んでいることの意識をもつために、全グループが入れる広い場所がよいでしょう。

また、参加者の積極的な取組を促すために、ブレイン・ストーミングやKJ法的な手法を使って検討してみてください。グループでの検討の進め方は以下ようになります。

## 準備物

- ・ 模造紙各グループ2枚（4能力領域に区切っておく）
- ・ 2～3色のマジック

## 進め方

### ブレイン・ストーミング

①個人のワークシートにはった付箋紙を領域ごとに分けて模造紙にはる。

はる時には短くコメントしながらはるようになります。「批判厳禁」で、グループの雰囲気を大切にします。

### KJ法的手法

②はった付箋紙を領域ごとに検討し、グループ化する。

同じ内容や似た内容を集めて、かたまりをつくとよいですね。

③グループ化したものをマジックで囲み、タイトルをつける。

みんなで話し合っ  
てタイトルをつ  
くることが大切  
です。

④タイトルを全員で検討し、学年で育みたい「能力・態度」を絞る。

育みたい「能力・態度」は、具体的な表現の方がよいですね。



他の学年との系統性や発達段階を踏まえた能力・態度になっているか、時々他の学年の作業の様子を見ようになるとよいですね。

## 手順3 全体での検討

低・中・高学年（中・高等学校は学年）でまとめた育みたい「能力・態度」を全体で検討します。各学年の代表者が図9のワークシートの自分の学年欄に記入し、発表します。全学年の発表の後、「系統性があるか」、「学年の発達段階を踏まえた能力・態度になっているか」を全教職員で確認していきます。

〇〇学校「学習プログラムの枠組み」

		職業的発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度		
能力		( ) 学年	( ) 学年	( ) 学年
人間関係形成能力	自他の理解能力			
	コミュニケーション能力			

各学年でまとめた育みたい「能力・態度」を欄に記入し、全体でつながりが見えるようにします。

図9 全体検討のワークシートの一部

## 手順4 キャリア教育推進委員会での最終検討

全体で作成したものを何日間か職員室の一角にはっておきます。その間に新たな考えや文章表現の修正点が出たら、付箋紙ではるように共通理解をしておきます。そして後日、キャリア教育推進委員会での最終検討をします。

## ステップ4 キャリア教育の全体計画を作成しましょう

### 1 全体計画を作成する意義

全体計画を作成することには、次のような意義があります。

- 自校の教育課程におけるキャリア教育の位置付けが明確になる。
- 学校として目指す児童生徒像や、発達段階を踏まえ各学年で育成を目指す能力や態度が明確になり、全体的な見通しをもつことができる。
- 各教科等におけるキャリア教育の指導の重点が明確になる。

### 2 全体計画を作成するに当たってのポイント

学校教育目標との関連からとらえたキャリア教育の目標や、育成したい能力や態度、各教科等におけるキャリア教育の指導の重点などを内容とするキャリア教育の全体計画を、次のポイントを参考に作成しましょう。

#### **ポイント1 キャリア教育の目標の設定**

学校の教育目標に照らし、キャリア教育の目標を設定する。「学習プログラムの枠組み(例)」を参考に設定することが考えられる。

#### **ポイント2 目指す児童生徒像の明確化**

児童生徒の実態を踏まえ、成長した姿を明確にする。

#### **ポイント3 発達段階ごとに育成したい能力・態度の明確化**

ステップ3で自校化した「学習プログラムの枠組み」に基づき、学年間の系統性を考慮して育成したい能力や態度を明確にする。

#### **ポイント4 各教科等におけるキャリア教育の指導の重点の位置付け**

各教科等の指導内容をキャリア教育の視点で見直し、キャリア教育の指導の重点を全体計画に位置付ける。

次ページに、小学校のキャリア教育全体計画の例(図10)を掲載しましたので、自校の全体計画作成の参考にしてください。なお、学校の実態に合わせて、キャリア教育の推進の基盤となるその他の教育活動や、家庭・地域との連携等を全体計画に位置付けることも考えられます。

また、全体計画は、教職員による共通理解を図るために、模造紙大に拡大し、職員室に掲示してみましょう。

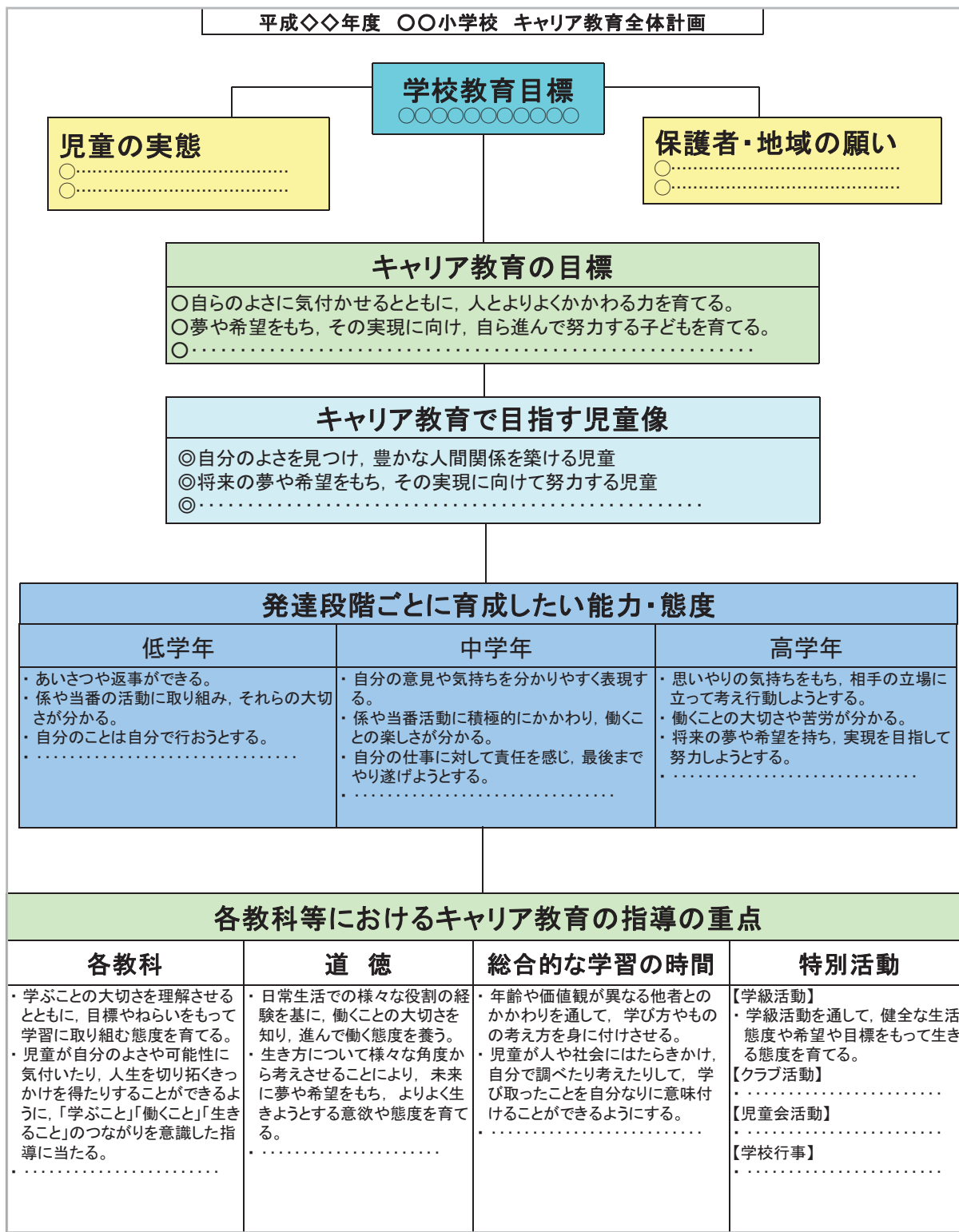


図10 小学校におけるキャリア教育全体計画の例

## ステップ5 キャリア教育の年間指導計画を作成しましょう

キャリア教育の全体計画を基に、自校のキャリア教育の方向性を確認します。方向性を確認した後、具体的な実践に取り組むための年間指導計画を作成しましょう。

年間指導計画は、手順を2段階に分けて作成してみましょう。

手順1：図11のように、各教科等の単元・題材において育成することができるキャリア発達にかかわる諸能力を明らかにします。

時期	国語	社会	…	道徳	総合的な学習の時間	学級活動
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○だいじょうぶ, だいじょうぶ</li> <li>&lt;自他の理解&gt;</li> <li>○水のこころ</li> <li>&lt;コミュニケーション&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○米づくりのさかんな庄内平野</li> <li>&lt;情報収集・探索&gt;</li> <li>&lt;職業理解&gt;</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「百シャアのふたごしまい」きんさん・ぎんさん</li> <li>&lt;自他の理解&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「広げようお米ワールド」</li> <li>○米づくり農家の見学</li> <li>&lt;情報収集・探索&gt;</li> <li>&lt;職業理解&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5年生になって</li> <li>&lt;役割把握・認識&gt;</li> <li>○楽しい学級をつくらう</li> <li>&lt;職業理解&gt;</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝え合おう, 5年生でがんばりたいこと</li> <li>&lt;コミュニケーション&gt;</li> <li>○国語辞典を活用しよう</li> <li>&lt;情報収集・探索&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水産業のさかんな枕崎市</li> <li>&lt;情報収集・探索&gt;</li> <li>&lt;職業理解&gt;</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○いつも全力で(不撓不屈)</li> <li>&lt;計画実行&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○田植え体験</li> <li>&lt;計画実行&gt;</li> <li>&lt;コミュニケーション&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しい読書</li> <li>&lt;選択&gt;</li> <li>○クラスの和を広めよう</li> <li>&lt;自他の理解&gt;</li> </ul>

単元・題材に育成できる能力を明記する。

図11 単元・題材とキャリア発達にかかわる諸能力を関連付けた例（第5学年）

手順2：図12のように、全体計画に基づき、学年でキャリア教育の中心となる学習を焦点化し、その学習と他の学習を系統的に関連付けた年間指導計画を作成します。

時期	各教科	道徳	総合的な学習の時間	学級活動
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会</li> <li>・米作りのさかんな庄内平野</li> <li>&lt;情報収集・探索&gt;</li> <li>&lt;職業理解&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連を線で結ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「広げようお米ワールド」</li> <li>・米づくり農家の見学</li> <li>&lt;情報収集・探索&gt;</li> <li>&lt;職業理解&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しい学級をつくらう</li> <li>&lt;職業理解&gt;</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語</li> <li>・伝え合おう, 5年生でがんばりたいこと</li> <li>&lt;コミュニケーション&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつも全力で(不撓不屈)</li> <li>&lt;計画実行&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田植え体験</li> <li>&lt;計画実行&gt;</li> <li>&lt;コミュニケーション&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心となる学習</li> </ul>

図12 中心となる学習と他の学習を関連付けた年間指導計画（一部）の例（第5学年）

このようにすることで、学年として明確なねらいと見通しをもったキャリア教育の実践が行えるようになります。現行の年間指導計画にある学習を見直し、キャリア教育の中心となる学習と関連する学習を明確に位置付けながら年間指導計画を整備していきましょう。

## ステップ6 キャリア教育の視点を踏まえた学習指導案を作成しましょう

### <作成手順の例>

手順1： 各教科等の学習がキャリア教育の全体計画及び年間指導計画とどのようにかかわっているかを確認します。

手順2： 単元や題材の目標と自校の学習プログラムの枠組みに示した育みたい能力や態度との関連を踏まえ、単元や題材におけるキャリア教育の視点を確認します。

手順3： 各教科等の目標を達成するために、学習のどの場面でどのようなキャリア発達にかかわる諸能力を伸ばしていくのかを明らかにし、ふさわしい学習活動・内容を位置付けます。キャリア教育でふさわしい学習活動としては、問題解決的な活動や体験的な活動などが考えられます。

### <学習指導案の作成のポイント>

- 1 単元（題材）名 ○○○○
- 2 単元の目標
- 3 キャリア教育の視点

自校化した学習プログラムの枠組みに基づいて、本単元（題材）で特に育みたい能力や態度を重点化して書きましょう。

- 4 単元について

キャリア教育の視点からも、指導観や児童生徒の実態をとらえておくようにしましょう。

- 5 単元の指導計画

時	主な学習活動	評価	キャリア発達にかかわる諸能力

各時間でキャリア発達にかかわる諸能力の育成を意識して指導できるように、それぞれの学習活動と関連の深い能力や態度を明らかにしておくといでしょう。

- 6 本時の指導

- (1) 本時のねらい
- (2) キャリア教育との関連
- (3) 展開

本時では、どの場面でどのような能力や態度を育みたいのか、具体的に書きましょう。

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>問題解決的な活動，体験的な活動，外部人材の活用，地域とかかわる活動，生活とつながる活動などを工夫しましょう。</p>	<p>(2)で示した能力や態度を育むための場の工夫や指示，助言内容などをできるだけ具体的に書きましょう。</p>